

# ストライプ土管・暗渠施工手順

## 1 土管の取扱

- ① 保管は、平坦な場所に土管が直接土に触れないように角材などを敷いて梱包し、シートを掛けて下さい。
- ② 小運搬に軽トラック・運搬車などを使う時は、土管と土管が当たらないように柔らかいクッション材（土・砂などは使用しないで下さい。）を敷いてロープでしっかり固定します。

## 2 掘削・床ならし

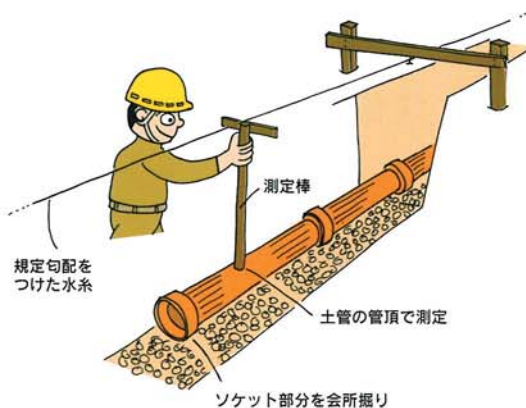
正規の掘削深さと勾配（1/300-500）にし、床面の小さなうねりは碎石などを50mm程入れカキ板などでならします。湧水箇所は碎石などを多めに入れます。

## 3 土管敷設準備

- ① 土管や継手類に泥土や砂などが付着していないか点検して、付着物はウエスやハケで取り除きます。
- ② 湧水が溜まる場合は、濁水が土管に入らないように水中ポンプなどで必ず排出してから（湧水が絶えないときは排水しながら）施工して下さい。土管の中に泥土・砂・濁水などが入れば長寿命が望めなくなります。

## 4 土管敷設

- ① 配管ラインに沿って約10mおきに必ず丁張りを設置して水系と土管の管頂（胴体上面）との距離を測る測定棒を作り、逐一測定して埋設深さと勾配をチェックします。
- ② 排水閘などの設置位置を決定してVU管と土管のVU用継手管を接合し、土管を順次下流よりうねりなく敷設します。その際、土管のソケット部分を会所掘り（土管自体にかかる荷重を、土管の胴体下面部分で受けるよう、ソケット部分を掘り下げること）します。なお接合は空継ぎで受口の奥に突き当たった位置で行います。
- ③ VU用継手管・L管・T管などの継手箇所は細めの杭・竹などで固定します。



## 5 被覆材の投入

- ① まず、土管の周囲に碎石、軽石、ボラなどの被覆材を250-350mm程入れます。その際、土管を破損しないように注意して、会所掘りした所もすきまができないように碎石などを充填して下さい。
- ② 次に、荒目砂（0.5-2.5）を200-300mm程入れます。碎石だけでは、耕土が碎石のすきまに侵入しやすくなり、また、クラッシャーランのときは微細粒子を含むため、細密充填の状態になりやすく、長寿命が望めなくなります。

## 6 表土埋設

被覆材投入後しばらく放置し、必ず圃場が十分乾燥してから行って下さい。このことにより暗渠周辺に「水みち」となる土壌亀裂の形成が促進されて、埋設後いちはやく効果が発揮されます。